

オウル大学（フィンランド）

遂に、前半戦である秋学期が終了しました。この4カ月間を振り返ると色々なことが起きたと思います。初めての海外で慣れない環境で、知らない同世代の子と屋根一つ下のスペースで一緒に暮らす。すべての授業が英語で、授業についていけない。天候が日本と違いすぎて、体調を崩しやすくなる。いろんな出会いがあって、忘れることが出来ない数多くの思い出。色々なことを話しているうちに、日本のことを全然知らないなと痛感させられたり、日本の外にいるからこそ分かる日本の良さに気付いたり、。まだまだ書き足りないのですが、色々なことに気付け、自分の中での当たり前が変化したと感じます。小さな変化でもしっかりと言語化して、後から見返せるようにしたいです。

そして、多くの友達がクリスマス前に帰ってしまいました。この4カ月間一緒に過ごした友達との別れは心に来るものがありました。毎週寮のサウナに行ったり、ご飯を一緒に作ったりと多くの時間を一緒に過ごしました。かけがえのない思い出を一緒に作ることが出来て本当に良かったです。そして、留学は出会いと別れなのだなと痛感しました。後期からは、一期一会を意識しながら、新しく出会う友達と最高の思い出を作っていきたいです。

淑明女子大学校（韓国）

この四か月間、英語と韓国語を両方伸ばそうとする中で気付いたのは、韓国語のほうが圧倒的に成長スピードが速いことです。韓国語は勉強を始めてから一年半ほどですが、（まだまだ足りないところはあるものの）簡単な日常会話なら問題なくできるレベルまで上がりました。

一方で英語に関しては、勉強を始めてから三年も経過した中学三年生の時ですら、コミュニケーションは少し難しかった記憶があります。この違いを生み出しているのは明らかに語順だと思います。日本語と韓国語は語順がほぼ一緒なので、思い浮かべた日本語を韓国語に順番に翻訳していけば話すことができます。対して英語は文法構造が全く異なるため、言葉を発する前に日本語を通過してしまうとスムーズに話せません。

いかに日本語を介さずに話せるかが英語学習にとって非常に重要であること、また自分にはその「英語脳」がまだまだ足りないことを、韓国語学習を通じてより痛感したような気がします。

ド・モントフォート大学（イギリス）

今月は平均気温が10度弱と先月と違いあまり寒くはなく、かなり過ごしやすかった。また、今月はクリスマスブレイクの時期ということもあって、とても充実した時間を過ごせた。

まず念願だったKing Power Stadiumでのサッカー観戦では日本代表の三笥薫選手のプレーを間近で見ことができ、彼以外の選手たちも画面越しの存在だった選手たちがものすごく近い場所でサッカーをしていることに感動した。スタジアムの雰囲気も圧巻で人々の完成に圧倒された。また、自分の好きなチームであるManchester Cityの試合も2試合観戦し、一つは同様にKing Power StadiumでのLeicester City戦、もう一つはBirminghamにあるVilla Parkで行われたAston Villa戦を観戦した。大好きなチームをサポートたちと応援できることが何よりも幸せでこの留学中に行ける限り観戦しに行こうと決めた。

クリスマスイブは日本人留学生たちと集まりパーティをして、翌日のクリスマス当日は友人宅のクリスマスパーティへ参加した。友人の家族たちは初めて会うはずの私をとてん温かく迎えてくれただけでなく、伝統的なクリスマスミールとたくさんのクリスマスプレゼントを用意してくれていた。その中に日本語で「メリークリスマス」と書かれたクリスマスレターがあり、この日のために文字を調べて書いてくれたと自慢気に報告してくれた。本当に感動し、とても幸せな気持ちになった。心温かい人々に囲まれて実際に映画やドラマの中にいるような貴重な経験をする事ができた。

ヒューロン大学（カナダ）

今回対面式のテストがあったのは一つだけで、CGS1023F Introduction to global developmentという授業のテストでした。テスト形式はエッセー式で、3時間で2つの質問に答えるというものでした。1つ目が評価30%のショートアンサー、2つ目が評価70%のエッセーで、それぞれ3ページまで書くというノルマがありました。質問の内容はこれまで授業で扱ってきた問題やコンセプトに対し、これまでのリーディングを元に自分の意見を述べるというものでした。片面一枚だけ自作のノートが持ち込み可能だったため、それを参考にエッセーを進めます。

はじめは3時間以内に初見の問題を二問、英語でエッセーを書くことに不安を感じ、できるか終始緊張していました。ですが先生が最後の授業でエッセーの書き方講座を開いてくれたり、オフィスアワーという、先生へ個別に質問できる時間を多めに用意してくれたりと生徒に寄り添った体系をとってくれたため、その時間を活用して不安を解消させることができました。これまでの授業をしっかりと聞き、課題やリーディングも理解し自分の意見を確立できていれば、書くことには困らないテスト問題でした。

分からないことや不安なことがあれば遠慮なく先生に聞き、使える時間やツールは惜しみなく使うべきという意識が当たり前の環境のおかげで、色んな助けを活用できたなと感じました。

国立台湾科技大学（台湾）

Introduction to linguisticsでは、中間試験同様に筆記試験が行われました。前回の反省を活かして勉強できたと思うので、中間試験よりいい得点が得られたら嬉しいです。この講義の内容はまさに私が学びたかったことが主だったのでとても楽しかったです。難しい専門用語も先生が軽く説明してくださるのでとても助かりました。講義の中では英語だけでなく、日本語も例として挙げられていたので学びが深まったと思います。

General Psychologyも中間試験同様、オンラインで試験がありました。前回は英語を読むスピードが遅かったことや、時間管理が甘くぎりぎりまで回答し終えることになってしまいましたが、今回はその反省を活かせたと思います。この講義は台湾大学で行われているのですが、ディスカッションやグループワークが多いので、台湾大学での知り合いを作るきっかけになりました。

Life in the Universe and Space Environmentでも反省を活かして時間管理を上手くできたと思います。普段関わることのない理系の学生と興味深いディスカッションなどを行えて、非常に有意義な講義でした。

Presentation for Englishでは最後に10分程度のプレゼンテーションを行いました。今学期学んだことを役立たせ、スライドのデザインを褒めてもらうことが出来ました。スピーキング力は初めてのプレゼンテーションのときに比べ、滑らかになったと思います。プレゼンテーションに慣れている台湾の学生たちの発表は本当に素晴らしく、とても参考になりました。

Oral Mandarinでは中国語で母国の料理を説明したり、質問に答えたりしました。先生が親切な方なので口述試験の中でも学ぶことが多く、モチベーションがより高まりました。